

川崎市青少年育成連盟（川崎市子ども会連盟・ボーイスカウト川崎地区協議会・ガールスカウト川崎市連絡会・川崎海洋少年団）

育連だより

<http://www.join.saiwai.kawasaki.jp/volunt/ikuren/index.html>

消防出初式へ参加

宮前区子ども会連合会会長 吉井 勇

平成16年1月10日（土）10時より、川崎市犬蔵消防総合訓練場で、宮前地区消防出初式が行なわれ、宮前地区少年消防クラブ員31名も、寒さに負けずに元気に参加しました。

当日は、宮前消防署、消防団、婦人消防隊の皆さんと一緒に分列行進をし、地震時における救助活動、各消防署の消防自動車、救急車のパレード、最後に一斉放水をして式は終了しました。

空からはヘリコプターがお祝いに駆けつけてくれましたが、砂塵が舞い上がり大変でした。

少年消防クラブ員は、年間6回の研修をしますが、宮前消防署の見学と、はしご車の体験乗車、神奈川県防災センターと消防学校では、地震、煙避難、放水、通報、消防車両の乗車体験、ロープの結案、三

角巾の取扱い等の研修、川崎市消防航空隊の施設見学、宮前区民祭のパレードの参加、2月の修了式で行事はすべて終了しました。



「第33期白梅隊」が結隊

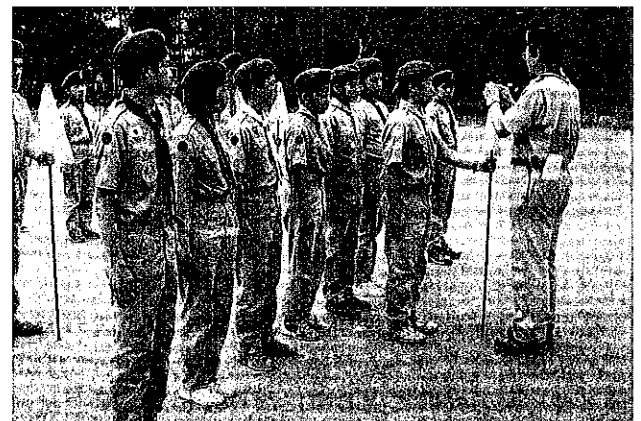
ボーイスカウト地区進歩委員会委員長 木村 寿宏

1月31日、第33期白梅隊の結隊式が行われました。白梅隊とは毎年川崎地区のボーイスカウト（中学生）を対象に行われる集合訓練会で、近年は班長・次長訓練コースとして開催されています。第33期は8個団から合計23名が参加し、山川信一隊長（49団）をはじめ、ボーイ隊長を中心に運営されています。3月の解隊までに1泊2日の隊集会を2回、3泊4日の隊キャンプを1回、班集会を数回実施します。

スカウトは3個班に分けられ、初めはベンチャースカウト（高校生）が務める班長のもと、班員として学びます。その間、グループワークや技能訓練を通して、技術・チームワーク・リーダーシップなどを高めていきます。2回目の隊集会では自分たちの中から班長を選び、隊キャンプに向けて活動します。また「班対抗競争」を重視していることも特徴です。

班対抗ゲームはスタッフが工夫を凝らしており、各班必死に優秀賞を目指しています。

各団に戻った時、班長・次長としてしっかり指導できるように、精一杯勉強してもらえればと思います。



スキーの思い出

私は初めてスキーをしました。

最初にゲレンデに出て、すべってみると、「シュー」と音がなりました。すると、スピードが出すぎて、あみの所につっこみました。とても、はくりよくがありました。こわかったです。けれど、だんだんなれてきて少しはすべれるようになりました。そして、コンペアーみたいなのに乗り、少し上の方に行き、上からすべりました。すると今度はちゃんとすべれるようになりました。

その後、二日目に「リフト」に乗りました。ちゅうぶらりんでこわかったけど、なんとか平気でした。おりる時どうしようかと思いました。

けれど、また、きせきのように平気でした。でも、りかちゃんはそのですべて転んでしまいました。そしてリフトをおりて、そこからまた、すべりました。なんと、ストックなしでした。けれど、や

ガールスカウト神奈川第14団 伊藤汐里

はりつっこみました。今度はすごく痛かったです。けれど、うまくすべれることができてよかったです。最後の日も上手にすべれたのでよかったです。

また行きたいです。



手旗の猛練習中

川崎海洋少年団

携帯電話やPHSをたくさんの方が使わずいぶんと普及していますが、それがなくても遠くの人と話せる手段があります。それは手旗信号です。赤と白の旗を持って、基本となる型を組み合わせると文字の形となり、自分の伝えたいことを相手に伝えることができます。

手旗で話ができるようになるには、日々の練習が欠かせません。今年の間東大会に向けての練習が始まっています。関東大会の手旗競技は意味のある文章50文字と意味のない文章50文字の全部で100文字を読み取る受信競技があります。100文字を全て読み上げて満点となり満点賞をもらうことができます。

その満点賞を受賞するために、手旗の基本形を覚え、相手に文字を送る送信と相手の送った文章を読む受信の練習をしています。なかなか全部は直ぐに

覚えられませんが、これからの練習でどんどん成長していくでしょう。これから団全員でがんばって練習します。

皆さん応援よろしくお願いいたします。



県の自転車大会に参加して

川崎区子連 藤崎子ども会 種市園子

私は、自転車大会は3回目の出場です。区の大会で、私達藤崎Aチームが総合優勝したので、6月29日(日)県の大会に出る事になりました。筆記試験

は、毎年やってもなかなか覚えられませんでした。チームの皆も難しかったようでした。実技では、左右、前後をよく見て、手信号も出すので、慎重に

走りました。特に難しかったのは、Aコースの信号です。青になったら渡るだけじゃなくて、横断歩道のとなりにある自転車専用道路を通らないといけないので、はみださないようにしたり、自転車の向きを持ち変えたりして、とても大変でした。Bコースで難しかったのは、スラロームです。びんとびんの間が区の大会よりも狭くて難しかったです。

だけど得意なコースもありました。それは、10メートルを20秒以上かけて走るコースです。これは、練習のときでも一番得意でうまく出来ました。上手なチームが多かったので自信はなかったけど、敢闘賞で、一番最初に私の名前が呼ばれた時は、とてもびっくりしました。チームは、入賞できなかったけ

れど、皆、力を合わせてがんばったので良かったです。



ゴールデン・アックス・トレーニング・コース (G.A.T.C.) を終えて

ボーイスカウトベンチャー委員会委員長 井村修治

隔年に開催する、高校生を対象にした訓練コース、半年間に及ぶ18回G.A.T.C.が終了しました。20名でスタートした同コースは一人の脱落者もなく、さらに「いやいや参加しましたが、今は本当に参加して良かったと思っています。」等の葉書までもらいました。指導者冥利につきます。夏のハヶ岳一泊登山、二泊三日の伊豆大島遠征がメインの活動です。確かに誘導はしましたが、彼らが自発的に立てた計画です。登山などメインの活動の前に行う事前訓練等も効率よく行っておりまして。これは、無謀なぶっつ

け本番の活動にならないように前もって準備や練習をするもので、考案法(プロジェクト法)に基づく最もスカウトらしいやり方です。「問題点の発見」がキーポイントでしょうか。ところで、近頃の若者は粗暴だ!等よく言われることですが、マスコミ等が必要以上に彼らを悪し様に言っているのではないのでしょうか?私は小さな子供を主に指導していたので高校年代のスカウトと比較的疎遠でした。今回、身近に接してみると、先入観とは大違い、大多数の若者は結構いいなと強く思いました。…青春万歳!

ジュニアのつどい

ガールスカウト神奈川第31団 小川とし子

川崎市内にある8つの団の4年生から6年生が集まるジュニアのつどいが、今年10月4日(土)に黒川青少年野外活動センターで行われ、野外料理に取り組みました。

ポリウムのあるハワイアンハンバーグは空き缶を利用しての直火焼きにします。タマネギのみじん切りと格闘したことも忘れるおいしさ。ホイルにえのき、タマネギ、肉や魚を置いて包むホイル焼きも手早くできました。フルーツ缶詰も、缶切りの使い方のコツをつかんですいすいできるようになりましたし、リンゴの皮むきも上達してボールに次々と果物が並びました。飯ごうのごはんも炊き上がり、各パトロールが調理したものをみんなで分けて食べました。

“あつまれGO年生”と名づけられた5年生だけの宿泊プログラムは、ジュニアのつどい解散後に開

会式が始まりました。5年生の集まりの経緯を伝え、この1泊で自分達のやりたいことと共に「やくそくとおきて」について考え学んで欲しいと話しました。

リーダーはスカウトが話し合いで決めたプログラムに対応できるようにさまざまな準備をしていましたが、思いも寄らぬ相談に知恵をしばったこともありました。ファイヤーは4人の司会者が歌をうまく入れながらテンポよく進め見事なできばえでした。リーダーたちが感心すると、団のシニアやレンジャーの姿をみていて自分達もやって見たかったと返事が返ってきました。また、三角巾を使って救急法では健康管理の話もしました。

スカウトが興味をもった旗手体験は、おやつタイムも早々に切り上げて、広い庭で旗の重さにも負けず繰り返し練習をしていました。最後の「ふりかえり」で決めた5年生メンバーでの運動会も間もなく

実現します。

意欲的に積極的に取り組んで楽しんだ一日でしたが、これも日頃の団での活動があってこそです。好

天に恵まれ流した汗に秋の風は一層心地よく感じられました。

川崎市子ども会議のサポーター養成講座を受講してみませんか

この講座は『川崎市子どもの権利に関する条例』第30条に規定された「川崎子ども会議」の自主的及び自発的取組を支援するサポーターを養成するために開催されます。

受講を通して、子どもの権利を理解し、地域の中の子ども活動の支援者としての資質を高め、受講後はサポーターとして、川崎市子ども会議に参加し、子どもの自主的活動のご支援をお願いします。

◎期 日 平成16年4月25日、5月2日、5月16日、5月30日、6月6日の各日曜日。

◎時 間 午前(10時～12時)午後(13時～15時)と2講座、5日間で10講座開催します。

◎受講料 無 料

◎川崎市子ども会議で活動支援いただきたいこと

◇養成講座修了後は、サポーターとして川崎市子ども会議に参加します。

◇川崎市子ども会議は基本的に毎月第2日曜日と第4日曜日に開催されます。

◎定 員 20人程度

◎応募資格

(1) 年齢—平成16年4月1日時点で18歳以上30歳未満の方で、川崎市子ども会議に参加できる方

(2) 川崎市子どもの権利に関する条例を理解し、子どもたちの意見表明に係わる活動を支援して行く熱意のある方

◎応募方法 原稿用紙1枚(400字)程度で記した「応募動機」と、氏名・住所・電話番号・生年月日を記したメモと一緒に、事務担当まで、手紙・FAX・Eメール等いずれかでお申込みください。

◎応募期限しめきり 平成16年4月15日(木)(当日の消印有効)。応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。

◎交通費 受講中は支給できませんが、正式なサポーター活動に際しては、ご自宅から会場までの往復の交通費として1200円を上限として支給します。

(昨年度のサポーター養成講座の様子)



(問合せ)

〒210-0004 川崎市川崎区宮本町6
川崎市教育委員会 生涯学習推進課
川崎市子ども会議サポーター係

TEL 200-3309

FAX 200-3950

E-mail kouyama-t@city.kawasaki.jp

編集後記

桜の開花宣言も既にあり、4団体の皆さんのお力添えで、“育連だより29号”が発行できました。

これからも宜しくお願いします。

編集者(花形)

発行 川崎市青少年育成連盟

事務局 〒211-0053

中原区上小田中6-22-5

エポック中原 5階

TEL 044-733-3951

印刷 西桜印刷株式会社